

品格のある翻訳、クオリティの高い翻訳は「お城の石垣」と同じ

私たち日本人が海外旅行をする時を考えてみたいと思います。

最近の日本人は、旅行慣れしており、またリピーターは”手取り・足取り”のツアーより、現地での自由行動が多い、ゆったりした旅を好む傾向にあります。その時に、英語の読み書き、しゃべりが多少できても、ヒアリングが十分でなければちょっと不安です。

仮に、旅行先の街のレストランに入って『日本語のメニュー』が準備されており、日本語のわかるスタッフがいると思わず嬉しくなり、ワインを多くオーダーをしてしまうかもしれません。

お土産ショップも同じです。 ちょっと変な日本語をしゃべる現地人は、時には愛嬌を感じ、いつの間にか欲しくないお土産も買わされてしまうかもしれません。

消えてしまう言葉を通してのコミュニケーションは、時には嬉しく、楽しい思い出のサポートをしてくれます。

しかしながら、ホームページやガイドブック、カタログは、全く別だと思えます。

そこに表現された文章が意味不明であれば、一二行読んでから、もはや見向きもしなくなります。そして、そのサイトへは二度と戻ってはきません。

正しく翻訳をすることは、その国へのレスペクト（尊敬、敬愛）そのものです。

世界に誇る観光資源があり、そのインバウンド、アウトバウンド事業で素晴らしい企画・アイデアを立てても、翻訳が貧弱であれば、その国の観光客の興味、信頼を得ることはできません。

また、どんなに素晴らしい製品を産み出しても、それを説明するカタログ、オペレーションマニュアルの意味が伝わらなければ見向きもされません。

私たちは、消費者、閲覧者目線に立ち、品格あるクオリティの高い翻訳をする事で皆様は、事業に専念して頂き、成功へのお手伝いをさせていただきます。

閑話休題

最近では自動翻訳システムが普及してきていますが、使用範囲は、まだまだ限定されています。スピードが要求されコストを抑えて翻訳品質を我慢する場合、例えば簡単な「オペ

レーションマニュアル」や「部品リスト」などは適していますが、「小説」や「難しい内容、文体自体の内容に関わっている場合、又は単純に「意図」を伝えたい場合は、翻訳者にとっても難しいように機械翻訳も難しく不向きです。

その理由は非常に単純です。機械は「意図」（言わんとする事への思いや理解）を扱うことができないからです。